

- MCI で楔前部から後部帯状回にかけての糖代謝の低下がみられるものは AD へ移行する可能性が高い。
- 米国では FDG-PET が AD と前頭側頭型認知症の鑑別に保険適用されている。
- FDG-PET による AD の早期診断について、米国、日本で前向き臨床試験が進行中である。

同様に楔前部から後部帯状回にかけての糖代謝の低下がみられるものは短期間に進行して AD へ移行する可能性が高いといわれているので SPM や 3D-SSP を用いた画像の統計解析による診断が有用である。

図 2 には物忘れを主訴に当施設の外来を受診した MCI の症例を提示する。初診時には臨床的に AD の診断基準を満たさず、MCI とされたが 1 年後に AD へ移行した症例である。初診時の FDG-PET の 3D-SSP 所見ではこの時点ですでに後部帯状回のみならず、頭頂葉皮質に糖代謝の低下がみられ、早期 AD が疑われる所見である。

FDG-PET による AD の早期診断の報告としては 3D-SSP を用いた検討で、感度 94%，特異度 99% が報告されている²⁾。また、大規模な多施設共同試験によるものでは、MMSE ≥ 27 の超早期例に限って解析しても感度 83%，特異度 82% と報告されている³⁾。ただし、この研究では画像統計解析ではなく、画像の解剖学的標準化と閑心領域による解析を組み合わせている。また、最近では MCI を対象に 2 年以内での AD への進展予測を 3D-SSP で検討し、感度 92%，特異度 89% と報告され、APOE genotype との併用によりさらに精度が上がると報告されている⁴⁾。

このように FDG-PET による AD の早期診断は大いに期待されているが、FDG-PET が AD と前頭側頭型認知症との鑑別において保険適用されている米国でもまだ保険適用は認められていない。このため AD の早期診断における FDG-PET の保険適用を念頭に、高いレベルの科学的エビデ

ンスを確立することを目標として、米国でも日本でも現在前向き臨床試験が進行中であり、その成果が期待されている^{5, 6)}。

まとめ

AD の早期診断における FDG-PET の有用性についてはすでに多くの報告があるが、SPM や 3D-SSP など画像統計解析を利用することでさらなる診断能の向上が期待できる。現在、FDG-PET によるアルツハイマー病の診断については健康保険未適用であるため、早期の保険適用が望まれる。

文 献

- 1) Silverman, D. H., Small, G. W., Chang, C. Y. et al. : Positron emission tomography in evaluation of dementia : Regional brain metabolism and long-term outcome. *JAMA* 286 : 2120-2127, 2001
- 2) Burdette, J. H., Minoshima, S., Vander, B. T. et al. : Alzheimer disease : improved visual interpretation of PET images by using three-dimensional stereotaxic surface projections. *Radiology* 198 : 837-843, 1996
- 3) Herholz, K., Salmon, E., Perani, D. et al. : Discrimination between Alzheimer dementia and controls by automated analysis of multicenter FDG PET. *Neuroimage* 17 : 302-316, 2002
- 4) Drzezga, A., Grimmer, T., Riemenschneider, M. et al. : Prediction of individual clinical outcome in MCI by means of genetic assessment and (18)F-FDG PET. *J Nucl Med* 46 : 1625-1632, 2005
- 5) Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative : <http://www.loni.ucla.edu/ADNI/>
- 6) Study on Diagnosis of early Alzheimer's disease—Japan : <http://square.umin.ac.jp/SEAD-J/>